

湧心館高等学校 定時制 令和6年度(2024年度)学校評価計画表

1 学校教育目標
基本的人権の尊重に基づき、生徒一人一人に対して深い愛情と理解をもって、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「最適な指導・支援や合理的配慮」を行い、徳（豊かな人間）・体（健康と体力）・知（確かな学力）の調和の取れた生きる力を備えた総合的人間力の育成に努める。 また、郷土に思いを馳せ、生涯にわたって郷土に誇りを持てる人材に育てる。

2 本年度の重点目標
1 確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む
(1) 主体的・対話的で深い学びの中で思考力、判断力、表現力を育むとともに、生涯にわたって学び続ける態度を養う。
(2) 生徒一人一人に応じた指導・支援を実践し、学力の基礎・基本を定着させる。 ※ 1人1台端末等を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの実践と言語活動の充実
(3) 望ましい勤労観・職業観を育成と生徒一人一人に応じた進路指導を行う。
2 道徳性と豊かな情操を育む
(1) 心に響く多様な指導を通して命を大切にする心や他者を思いやる心を育む。
(2) 規範意識を身に付け、善悪を判断し、自ら律する力を育む。
(3) 我が国と郷土の歴史や文化・伝統を尊重する態度とグローバルな視点を育む。
3 心身の健康を自己管理する態度を養う
(1) 基本的な生活習慣と正しい食習慣を身に付けさせる。 ※ 時間の厳守、挨拶の励行、掃除の徹底、端正な整容等の徹底
(2) 運動に親しむ態度を育み、体力を向上させるとともに、豊かなスポーツライフを実現・継続するための資質・能力を育む。
(3) 生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、安全で安心な社会づくりに貢献できる資質・能力を育む。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の経営方針	重点目標の達成安全・安心な校づくり働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標や生徒の姿勢、教育の柱を生徒、保護者、職員で共有し、生徒への支援体制を確立させる。(肯定的評価93%) 生命の尊さを考える。 業務の効率化を図る。 「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」を遵守する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「湧定の目指す生徒像」に向けた各部・各学年の取組を有効的にし、反省と実践のサイクルを実施する。 行事等の目的、趣旨を明確にし、職員会議で共通理解を図るとともに、生徒にはHRや生徒集会等でその意義を周知する。 チーム・組織として業務を遂行する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート項目「目標達成に向けて頑張っている」の肯定的評価は生徒(84%→75%)保護者(86%→94%)、職員(95%→96%)となり、保護者・職員は昨年度を上回結果となった。 各行事を担当する校務分掌部と主査が実施要項等で職員・生徒には目的と趣旨をしっかりと伝えてくれた。特に湧定祭ではテーマに沿った活動、展示ができた。また、全ての行事で生徒会の積極的に活動してくれた。 各校務分掌において「チーム湧定」として機能することができた。特に九州定通教育振興会熊本大会では定時制職員全員で運営することができた。

学校 経営	信頼される開 かれた学校づ くり	振興会活動の 充実 保護者との連 携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者関係の行 事出席率向上 (振興会総会等 での出席率50 %) 	<ul style="list-style-type: none"> 各種案内及び会報紙 を保護者の手元に確 実に届ける。 会報紙に行事内容を 詳細に記載する。 振興会総会の欠席者 集会を実施する。 保護者に生徒の学校 生活の現状を伝え、 連携を強化する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会報紙と共に通知表や学 級通信を同封し、郵送した。 スグール等を活用し、長期休業明 けの学校再開日の時間を流し周 知を図った。 保護者会(振興会)総会会及び欠 席者集会を開催し、前年度より向 上し、出席率が43%であった。 保護者会(振興会)役員会を年6 回実施し、年間の出席率が42% であった。
	業務改善 働き方改革	業務改善の 推進	<ul style="list-style-type: none"> 慣例となってい る各部署の業務 内容を一つは削 減、或いは改善 する。 	<ul style="list-style-type: none"> 形骸化した報告様式 等を改善(簡略)、或 いは廃止し、職員の 負担を軽減する。 ICT器具等を活用した 効率化が見込まれる 業務を洗い出し、隨 時変更していく。 職員間のコミュニケーションを 高め、報告、連絡、相 談がしやすい職場環 境を作る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員による年間反省は2回の実 施から1回の実施とした。また、 運営委員会・職員会議を隔月の 実施を検討していたが今年度は 出来なかった。 学校評価アンケート(保護者)を ICT器具を使って実施し、担任の 負担軽減と用紙削減ができた。 各校務分掌での「報告・連絡・相 談」を行うことにより個人では なく、組織としての動きが良くな った。
			<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケ ートにおいて、 昨年度比2項目 以上評価を上 げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価の視点で 各教科担当者が授業 を改善し、授業評価 を上げる。 学校ホームページ等 を活用しながらタイ ムリーに学校の様子 や生徒の活躍を発信 する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの肯定的な 回答をみると「生徒集計: 10項目 中8項目」「保護者集計: 10項目 中9項目」「職員集計: 10項目 中6項目」が上回る結果であ った。 行事毎にホームページ担当者を決 め、「定時制日誌」として、タイ ムリーに学校の様子や生徒の活 躍を発信することができた。
		時間外勤務時 間の改善	<ul style="list-style-type: none"> 45時間以上の 時間外勤務者数 を毎月0にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定時退勤と定時出勤 を推進し、長時間勤 務の状況が続ければ都 度面談を行い、原因 の特定と解消を図 る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 時差出勤が本年度から実施され、 約3割近くの職員が実施した。 一ヶ月45時間以上の時間外勤 務者数は年間で5名以下であ った。
学力 向上	基礎学力の向 上	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的 で深い学びの中 で、思考力、判断 力、表現力を育 む授業の実施 生徒の興味・関 心を喚起しなが ら学力の基礎・ 基本の定着をは かる授業 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットや電子黒 板などのICT機器 の活用および職員研 修の実施により思考 力、判断力、表現力を 育むための効果的な 活用方法を研究し、 主体的・対話的で深 い学びのある授業の 構築をはかる。 生徒の興味・関心をひ く授業の実施、学力 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート集計「私は定 時制で学んで良かった」「先生方 の授業の教え方や節目がわかりや すい」(生徒全学年)について、 前年度同様、9割近くの評価を得 ることができた。 タブレットや電子黒板などのIC T機器の活用について、定時的な 職員研修の実施およびICT支援 員への相談・指導を仰ぐことによ って、今後も効果的な活用方法を 模索し、生徒の興味・関心をひく

学力向上				の基礎・基本の定着をはかる授業改善を心掛け、生徒が個々の課題を達成し、学ぶ喜びを味わい、本校での学びの意義を見出すように支援を行う。		ための授業改善をはかっていく。
	学力保障		<ul style="list-style-type: none"> 授業や学校行事等に進んで参加による確かな学力の育成と「徳・体・知」の調和のとれた総合人間力の育成 学校評価アンケートで生徒質問項目「定時制で学んで良かった」「先生方の授業の教え方や説明がわかりやすい」等、前年度を上回る評価を得る 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に学習に取り組む意欲・態度（授業時の挨拶や取り組む姿勢）を高め、粘り強く指導することで、簡単に休まないようにし、前年度よりも遅刻・欠席する生徒を少なくする。 各生徒の理解状況を把握し、中学校卒業程度の内容を含め、1時間で完結する授業の展開を行い、わかりやすい授業や個別指導、基礎学力の向上をはかる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート集計（生徒全学年）において、「定時制で学んで良かった」「先生方の授業の教え方や説明がわかりやすい」「学校生活や授業を大切にしている」と前年度と同様の9割の生徒が回答した。しかし、毎日の授業に遅刻・欠席する生徒があり、授業に取り組む姿勢・態度を改善するために今後も粘り強く指導を続けていきたい。今後とも分かりやすい授業・基礎学力の向上を目指した指導をすすめていく必要がある。
	参加型授業の展開 教育課程の見直し		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的、対話的で意欲的に授業に取り組む活動の促進 教育課程の検討と見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心を喚起する教材研究と教材作成を行う。また生徒の主体的活動を促すための指導方法の工夫・改善を行う。 次年度から全学年ににおいて、新学習指導要領に基づいた教育課程を実施し、学習意欲を高める運用ができるように努めるとともに、教育活動の質の向上をはかることができるよう、継続的な検討を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 本校の生徒にとって分かりやすい授業、各先生方の工夫・改善をすすめていただくように今年度も公開授業および研究授業（国語・英語・家庭）を実施した。今年度も10月下旬に公開授業週間を行った。 新教育課程が導入されて3年目のため、新課程の1～3年生、旧課程の4年生との調整をはかりながら、生徒の進路保障のために有用で円滑な教育カリキュラムの運用を行ってきた。今後も教育活動の向上をはかり、検討していきたい。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の推進	望ましい勤労観・職業観の育成	<ul style="list-style-type: none"> 就労率の向上を図り、実体験を通して、働くことの意義や喜びを感じせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会やキャリアガイダンスで外部講師を招聘し、働くことについて多面的に考えさせ、勤労意欲を啓発する。 4月、11月に就業実態調査を実施し、そ 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートでの「私は、自分の進路（進学・就職等）について考えている。」という調査項目では、「よくあてはまる」が48.1%（昨年度37.2%）であり、進路講演会等をとおして進路や働くことについて考える生徒が増加した。

			<p>の後の職場訪問や面談を通して、生徒の就労状況を把握し、支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職希望の生徒に対して、担任、校内ジョブサポーター、進路部職員で面談や助言を行うことで、進路決定につなげる。 ・インターンシップへの参加を推奨し、様々な体験を通して職業観について考えさせる。 ・生活体験作文の作成や発表を通して「働きながら学ぶ」定時制の在り方に誇りを持たせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・就業実態調査では、生徒の就業率は4月が54.6%（昨年度49.5%）、11月が68.4%（昨年度66.6%）だった。担任、学年の先生等の面談・支援により、就業率は増加した。 ・学校紹介の就職希望の生徒については、進路部と担任の連携を密にして支援・指導にあたり、全員内定した。 ・インターンシップには、7名が参加した。アンケートには、「自分の将来について考える大変良い機会となった」と5名が回答するなど一定の成果を上げた。 ・生活体験作文では、定時制に入つて働きながら学ぶなかで感じたことや将来の夢などにふれ、定時制で過ごすなかでの目標などを発表できた。
			<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報をもとに視野を広げ、具体的な進路について考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4月、11月に進路希望調査を実施し、5月、3月の面談期間はもちろん、担任、進路指導部で細やかな面談を行う。 ・合格体験発表会を実施し、先輩たちが体験した進路実現への道のりに学ぶ。 ・進路学習期間（12月～1月）を設け、各学年の実情に応じた進路学習を行う。
進路目標の達成	個に応じた進路指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな基礎学力を身に付け、コミュニケーション能力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生対象の基礎学力確認テスト（4月、国数英）を実施し、結果を共有、考察することで課題を明らかにし、授業改善に役立てる。 ・社会人として必要となる気持ちのよい挨拶や、望ましい言葉遣い、立ち振る舞い等、授業を含めた普段の学校生活において、全職員で指導していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年の協力を得て、基礎学力テストを実施した。それを基に全職員による学力分析会を実施し、生徒個々の基礎学力の状況、学年全体として苦手にしている科目などを伝えた。 ・職員から生徒に挨拶をしている。7月の全校集会では、進路指導主事が挨拶・言葉遣い・コミュニケーション等の重要性について講話をおこなった。ただし、できない（しない）生徒も多く、日頃から粘り強く指導していく必要がある。

キャリア教育(進路指導)			・個別指導の充実を図る。	・生徒のニーズに応じた個別の学習指導(教科、模擬面接、一般常識、小論文等)を実施する。特に卒業学年においては、全職員の協力を得て、面接指導等行い進路実現につなげる。	A	・個別指導については、4年生2名、3年生2名、2年生2名が申し出た。英語を中心に、教科の担当職員の指導のもと課題学習に取り組んだ。卒業学年については、管理職を含めた全職員で面接指導や個別指導にあたり、進学希望の全生徒が合格した。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	自主・自立に沿った活動の有無	・高校生として自覚を促す。 ・自主的活動の推進(生徒会活動等)	・定時制生徒としての自覚を促し、仕事と勉強を両立する基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ・生徒会を中心に自治活動を行い、生徒自身の企画・運営による学校行事を実施する。	B	・全体的には落ち着いている。集会時等においても整列、参加態度は良好である。 ・様々な行事において、生徒会が中心になって企画・運営を行い、学校全体を活性化させている。
	けじめのある生活		・定時制生徒としての自覚を促し、仕事と勉強を両立する基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ・生徒会を中心に自治活動を行い、生徒自身の企画・運営による学校行事を実施する。	・校則遵守の徹底および社会で通用するマナーやエチケットを理解させ、身に付けさせる。 ・挨拶の励行、正しい言葉遣い、時間厳守、端正な整容等について、職員が模範を示し、きめ細やかで、丁寧な指導を繰り返し行う。	B	・職員の見守りや細やかな声かけにより、挨拶や言葉遣いを学び、マナー、モラルの向上やコミュニケーション能力を高めることに繋がっている。 ・生徒の情報を職員間で共有することにより、素早い適切な対応策をとることができている。 ・課題として、授業の遅刻や中抜け等が時折見受けられる。
	環境教育の推進	環境保全意識の向上	・エコ活動の実施 ・安全・安心な学校環境の整備	・ゴミ分別の徹底(可燃物・プラスチック・ペットボトル・缶)、紙の節約(再生紙や裏紙の使用)、節電(使用しない教室の消灯)、節水を実施する。 ・清掃ボランティア活動の実施。(年3回)	B	・ごみ分別を細分化し環境美化への意識を向上させ、紙の節約、節電、節水等のエコ活動ができる。 ・「安全・衛生点検」では故障箇所等の連絡について、事務担当者と連携して取り組むことができている。 ・生徒会を中心に、清掃ボランティア活動を3回実施した。職員も協力しているが、更なる参加生徒の拡充が課題である。
生徒会活動の充実	自発的な生徒会執行部の活動		・学校行事に積極的な参加を促す。	・生徒会やクラス企画を中心に湧定祭やスポーツフェスティバルを企画・実施する。 ・生徒会各種委員会の講演会等を含め運営に携わる場を設け	A	・生徒会執行部が湧定祭やスポーツフェスティバル等の企画運営に自発的・積極的に取り組んだ。 ・講演会等で生徒が講師に対して謝辞を述べる場面を設定することができた。 ・定例会では、限られた時間の中で

生徒指導				る。 ・定例会で議題を出し合い、学校活性化に向けて企画、実施する。		様々な意見を積極的に出し合い、行事に対してベストを尽くして取り組む姿勢ができている。
保健安全	保健・安全教育の充実	保健指導 健康指導	・心身の健康の自己管理	・定期健康診断の目的や手順を各検診の前に説明し、健康診断を受ける意識を高める。その際、イラスト等を用い、わかりやすくなるよう工夫する。 ・定期健康診断の結果、所見があった生徒に対して医療機関で詳しい検査や治療を勧める文書を発行し、病気の早期発見や早期治療に努める。 ・健康教育（性教育・薬物乱用防止・がん教育）及び安全教育（救急蘇生法講習会）を実施し、生涯において健康で安全な生活を送るための予防教育に努める。	B	・定期健康診断の目的を説明し、手順をイラストでわかりやすく示した上で検診に臨むことが出来た。 ・学校医による定期健康診断は欠席する生徒がいたため、100%の受診に至らなかった。ただし、内科検診のみ欠席者対象の内科検診を追加実施できたため、長期欠席を除くすべての生徒の内科検診を完了できた。欠席者には校医の所に出向き、検診を受けるようプリントを発行した。また、疾病異常の生徒には治療勧告書を2度発行した。しかし、受診した生徒はわずかであった。 ・健康教育講演会は年間計画通りにすべて実施できた。生徒の事後アンケートをGoogleフォームで作成し、担任団に結果を返却した。知識を習得することで予防教育に繋がった。
食育・給食教育の推進	食育指導 給食指導	・毎日の給食を通して、食育を推進するとともにマナーの向上を図る。	・安全で快適な給食環境づくり。 ・毎日の給食指導の中での食の重要性、安全性に関する指導の充実。 ・食育への意識向上を目的とした「食育だより」の発行を月1回行うことと、食堂の食育に関する掲示物を充実させる。	A	・学校給食施設等の定期検査により、学期毎に厨房・食堂の点検をした。夏休み、1月に学校薬剤師に食器の汚れや、照度検査を実施してもらった結果をふまえ、食器の入替や照明を取り替えるなど安心安全な給食作りができるようになった。 ・熊本県産の有機農産物を活用した給食を実施し、生徒・教職員に県産の農産物への興味関心を高めることができた。 ・食育便りを毎月発行し、生徒・教職員の食育の推進が図られた。	
特別支援教育	インクルーシブ教育に根ざした教育活動の推進	支援体制の充実	・生徒全員のフェイシスシートの作成 ・支援を必要とする個別支援計画の作成	・新入生の実態把握のために学校生活状況調査と入学前面談を実施する。 ・月1回の委員会を開き、情報の共有と連携を図る。 ・必要に応じて他機関との連携(s c, s s)	B	・合格者説明会の時に新入生の面談について保健部の先生方と協力しながら入学前面談を行い情報共有することができた。 ・教頭先生はじめ主任、指導主事の先生を含めて月に1回の委員会を開き、情報の共有を図ることができた。 ・先生方との話し合いで、早めに他

			<p>w、外部支援機関等)を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修を実施する。(年1回) 		<p>機関と連携ができたことは成果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年は、一部の通信制の先生方と一緒に尚絅大学こども学科の先生を招いて、精神科における療法についてお話を聞くことができた。
人権教育の推進	人権教育の推進	職員及び生徒の 人権意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修及び人権学習の充実(肯定的評価80%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回職員研修を実施し、職員の人権感覚を養う。 ・人権意識高揚のためのLHRや講演会などを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の職員研修を実施し、学校の教育実践に即した研修に取り組むことができた。 ・人権学習LHRは各学年3回実施。それぞれの学年で工夫して行うことができた。 ・職員研修とLHRの1回を合わせて人権講演会として実施することができた。
	進路保障		<ul style="list-style-type: none"> ・適正な就職採用選考に向けた取り組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国統一応募用紙制定の趣旨について、さらなる徹底を図るために、年1回卒業学年生徒に人権教育主任が話す場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国統一応募用紙制定の趣旨及び「言わない・書かない・提出しない」取組についてのLHRを人権教育主任が行った。 ・問題事案について取り組むことができた。
	命を大切にする心を育む指導	全ての教育活動において、生徒及び教職員の自尊感情を高める取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を基盤に据えた授業や特別活動の実施 ・教職員の人権感覚を養い実践力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験作文の取組や人権教育LHR、授業などにおいて、生徒や教職員が自らの暮らしを深く見つめ、親の願いや労働を知るとともに、思いを共有し、仲間づくりを促進する。 ・全職員に校外での研修への参加を促し、年間最低1回は参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験作文や湧定祭の取組などを通して、お互いの暮らしを見つめ、つながりを作る機会になった。今後も日々の授業を含めて様々な取組を人権教育の視点で捉え、なかまづくりを意識した実践を目指して行きたい。 ・研修参加の呼びかけを計画的に進めることがでいた。次年度以降も、できる限り年一回の校外研修参加を呼びかけていきたい。
いじめの防止等	いじめの防止の取組	未然防止・早期発見の相談体制と継続指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ防止対策推進法」に基づく教職員の組織(いじめ問題対策委員会)を中心に、いじめ根絶に向けた取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題対策委員会が主導する職員会議、職員研修を通して、共有した情報のもと生徒に寄り添う統一した指導に努める。 ・個々の事案について、正確で迅速な情報収集と事実把握と確認に努める。(調査:年3回)また、当該生徒の更生と相手生徒との関係改善を図る。 ・人権教育の推進と連 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題対策委員会を中心に、いじめについての事案、解決方法、課題等を話し合い、職員間で共有できた。 ・年間3回実施する心のアンケートを基に生徒の状況を把握して、いじめ防止につなげることができている。 ・日常的に「いじめは許さない」の指導を徹底しており、目撃情報提供やお互いの声掛け等が生徒間でも時折見受けられ、未然防止に繋がっている。 ・連絡会や職員会議で生徒情報を共有し、情報交換と状況把握に努

				携により、いじめを許さない態度の育成と、いじめを根絶する雰囲気づくりに努める。		めて「気づき」を大切にしている。 ・課題としては、日頃からSNS等による誹謗中傷や個人情報漏洩をしないように指導しているが、徹底できていない場面も見受けられる。今後も地道な指導が必要である。
地域連携 (コミュニティスクールなど)	生徒、教職員の防災対応能力の向上	避難訓練の実施 防災マニュアルの見直し 地域との連携	・避難訓練の実施と防災マニュアルの改訂 ・「ぼうさい通信」の発行 ・校内巡回指導、安全点検の実施 ・生徒全員安心メール加入（100%） ・年3回程度の清掃ボランティアの実施 ・地域の方との交流	・学校生活の特性や地域の実情を鑑みた避難訓練を実施する。 ・「ぼうさい通信」の活用による防災意識向上に努める。 ・防災対策の一環とした日頃の校内巡回指導と安全点検における施設内の確認を図る。 ・安心メール加入率の向上の推進に努める。 ・学校周辺の清掃ボランティアを実施し、地域との連携を図る。 ・熟年者との合同調理を通しての地域住人ととの交流を図る。	B	・訓練時に校内の照明を消し、停電の状況を作りだすことで、より実践的な形で訓練を実施することができた。 ・全日・通信制の防災主任と協力しながら「ぼうさい通信」を毎月発行し、生徒・職員に配布した。 ・近隣学校の防災主任と協議を行い、災害発生時の生徒の引き渡し方法や各学校の防災に関する取り組みなどの情報共有を行った。 ・加入率はほぼ100%で、学校や防災の情報（緊急連絡）等を流すことで加入率の維持に繋がった。 ・生徒会を中心とする学校周辺の清掃ボランティア実施することで、環境美化における地域貢献を行うことができた。 ・コロナ禍以降、熟年者との合同調理は開催できており、文化祭での案内ののみと地域住民との連携を取る機会が限られた。

4 学校関係者評価

- (1) 本校の学校運営及び教育活動の取組とその成果について、保護者、生徒へも高い評価をいただいていることに賛同をいただいた。また、保護者に学校の取組への理解を図り、家庭と学校が共に協力して生徒の教育活動を推進していくために家庭教育への支援について助言をいただいた。
- (2) 本校のいじめ見逃し「0」を目指して対応していることに賛同及び感謝の言葉をいただいた。家庭との連絡を取り合って、関係機関との連携も踏まえた学校組織としての取組や対応の充実について言及された。特にいじめ問題については、重大事態にならないよう一層、普段からの観察及び相談体制の充実や生徒の困り感に丁寧に対応するなどの初動を大切にする助言をいただいた。
- (3) 生徒家庭調査について言及され、家庭環境の把握の提言を受けた。ヤングケアラーの問題を心配され、生徒の出欠や様子の変化が見られる場合、関係機関と協議した上、専門機関への通告を行う助言をいただいた。生徒の学校生活への目配りを教員へ助言された。
- (4) 本校のボランティア活動の取組について高評価をいただいた。是非、継続して奉仕の精神を学んでほしいという願いがあり、年間を通して活動できる体制づくりの提言を受けた。青少年赤十字の活動は、募金活動だけでなく、国際交流研修や高校席連絡協議会の参加もでき、多くの高校生との情報交換ができ、学び多い活動であると助言を受けた。
- (5) 地元地域の代表者の方からは、地域の祭りのボランティア活動や清掃活動に大変感謝されているとお褒めの言葉をいただいた。地元地域としても学校へ協力を惜しまないという評価をいただいた。今後もコミュニティスクールの制度に則した「地域とともにある学校づくり」の推進について助言等をいただいた。

5 総合評価

本年度の学校目標は概ね達成され、アンケート評価もそれを示す結果となった。

- (1) 評価項目の24項目のうち十分達成できているA評価が7項目、概ね達成できているB評価が17項目、やや不十分であるC評価と不十分であるD評価は0項目であった。昨年度はC評価が1項目あったが、本年度は解消することができ、各校務分掌において、「チーム湧定」として組織的な体制づくりの推進が図られた。
- (2) 成果が上がった項目として、「学校生活や授業を大切にしている」の項目は2.1%、「授業を大切にしている」0.2%「周りの一人一人(個人)を大切にし、他人の考え方・行動を尊敬する」1.0%、「悩みや相談ごとを先生に話している」2.3%、「自分の進路について考えている」1.0%が上回っている。10項目の内4項目で昨年を上回ったことは、多くの生徒が学校生活に満足し、充実した生活が送られていることを表している。
- (3) 「学力保障」は昨年度C評価からB評価に上がっている。「先生方の説明が分かりやすい」「授業を大切にしている」ことからも日頃の学力保障に繋がっている。また、学校評価アンケート(保護者)での「家庭学習をきちんと行っている」も昨年度を10.6%上回っていることからも分かる。今後も教科指導の職員研修や公開授業で指導力の研鑽を図っていきたい。
- (4) 多くの生徒が基本的生活習慣やけじめある生活が確立しており、集会、学校行事等のマナーや相手を尊重する態度も学年を積む毎に自覚してきている。前期では1・2年に落ち着きがない生徒が若干名いたが、後期では比較的落ち着いた学校生活を送るようになってきた。
- (5) 今年度も特別支援教育における個別の指導計画・支援計画、配慮を要する生徒等へのサポート体制と生徒理解研修の充実により個々に応じた対応ができている。また、特別支援教育コーディネーター及び教育相談担当主査を中心に、担任や養護教諭、SCやSSW等との連携も図れている。次年度は年度当初(入学前)に生徒理解研修を実施し、新入生が安心できる教育環境をつくっていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 次年度も本年度と同様に社会で活躍されている卒業生(OB・OG)に来校いただき、進路指導はもとより、湧定生としての誇りと自信を身に付けさせ、自己実現を図る。
- (2) 少しづつではあるが、学校から保護者(家庭)への情報発信が活発に行われるようになつたが、まだまだ保護者の協力と学校行事への参加は十分ではないので、学校活動の報告と学校行事への参加をアピールしていきたい。
- (3) 学習指導においては、新学習指導要領の実施に向けて、新教育課程の編成が課題であり、教務を中心に各学科主任や各教科主任と連携を図り、特色ある学校づくりのカリキュラムの創意・工夫を図る。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、定時制独自の「総合的な探究の時間」の充実に取り組み、「湧定を行きたい!」にする。
- (4) 進路指導においては、各個人に合った具体的なインターンシップ等の体験活動の充実を図り、職業観・勤労観を育み、目的意識を持って日々の活動に取り組む態度を育成する。
- (5) 生活指導において、健全で自立的な態度、道徳的な心情や判断力の向上を図り、生徒自らが考え、主体的に行動できる、基本的な生活習慣を確立させる。また、いじめ等の未然防止、各種委員会活動等の活性化に向けた取り組みが必要である。また、コミュニケーション能力の向上や情報モラルの向上と定着が課題である。
- (6) 各校務分掌における業務・仕事の平準化を踏まえ、特定の担当主査に業務の負担過重にならないように組織として対応できるシステムを構築する。